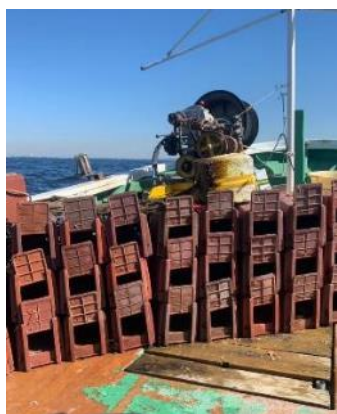




## 漁況情報

### 【4月はじめ】横須賀東部：猿島周りタコ漁好調

4月はじめに、風が強い日が続いていますが、天候不良な日の隙間を狙ってタコツボ漁を行っています。価格は例年並みですが、昨年と比較しても2～3倍の水揚げになっているようです。タコツボ漁の餌に使う、「磯ガニ」を確保するのにも一苦労しているとのこと。



タコツボ



水揚げしたタコ



船倉内生簀

### 【4月半ば】三浦：ひじき収穫と出荷

4月になって、三浦市内の各地でひじきの刈り取りや天日干し作業が行われています。この浜でも漁業者がひじきを広げながら「伸びが心配だったが、どうにか刈れたよ」と話していました。乾かされたひじきは袋詰めされ、トラックで運ばれて行きました。



水揚げ



天日干し:乾燥



袋詰め出荷

### 【4月21日】小坪：天然ワカメ、長い漁期

天然ワカメは、2月から各地で収穫が始まり、3月に最盛期を迎えましたが、株ごとに成長速度に幅があり、今年は長期間にわたって収穫されました。小坪では、例年は3月末に終漁になりますが、今年は終漁が遅くなっており、4月21日にも収穫を行いました。まだ漁場にワカメは残っていたものの、その日で今年の漁を打ち切ることにしたそうです。



茹でたワカメを干す漁業者

## 浜 の 話 題

### 【4月】横須賀・三浦・長井・小坪：ワカメ種付け（種苗生産）

4月に入り、各浜でワカメ養殖漁業者が、種付けを行っていました。メカブの入った容器に種糸と呼ばれる糸を張った枠を浸して、ワカメの遊走子を付着させます。取り出された枠は培養小屋と呼ばれる屋内種苗育成水槽で夏を超えて管理されます。小坪では、腰越の関澤青年漁業士が作業に参加し、今後、腰越で種糸の育成を目指し、手法を学んでいました。



メカブを攪拌



遊走子の付着を顕鏡



種枠種苗育成水槽

### 【4月1日】横浜市漁協柴支所：大漁祈願

4月1日、横浜市漁協柴支所では、毎年恒例の水神祭りが行われました。当日は、雨や風が強い中でしたが、多くの漁業者が参加して、大漁祈願を行っていました。



大漁祈願



大漁祈願の舞い



祭壇にお供え

### 【4月3日】腰越：朝市

4月3日、漁協事務所前で今年最初の朝市を開催しました。ワカメ等をお値打ち価格で販売しました。雨天にもかかわらず、70名近くのお客様が来訪し、好評でした。

朝市は、毎月第1、第3木曜日に10時から開催しています(1、2、8月はお休み)。



## 【4月8日】漁業士会：役員会

4月8日、かながわ県民センター(横浜市)で令和7年度第1回漁業士会役員会が開催され、漁業士研修会の日程等の議題について協議しました。

## 【4月9日】平塚：ワカメ種付け（種苗生産）

4月9日、平塚市漁協で昨年に引き続きワカメの種苗生産を実施しましたが、昨年からワカメ養殖に取り組み始めた岩漁協所属の皆木青年漁業士も視察に訪れました。当日は平塚の養殖ワカメを用いて種付けし、メカブから遊走子も多く放出され、良好な状態で種付けできました。



メカブ



種付け枠



種枠種苗育成水槽

## 【4月10日】小田原：アオリイカ産卵礁の設置

4月10日、小田原藻場再生活動組織は、藻場再生活動の一環で、江の浦地先にアオリイカの産卵礁を設置しました。アオリイカは、植食性魚類であるアイゴの天敵であることから、藻場再生への寄与が期待されます。



使用した伐採木



設置前の産卵礁

## 【4月13日】鎌倉：朝市

4月13日、湘南漁協鎌倉支所は、鎌倉パークホテル玄関前で今年最初の朝市を開催しました。ハマグリ、イセエビ、アオリイカ等をお値打ち価格で販売しました。雨天にもかかわらず、70名近くのお客様が来訪し、好評でした。

朝市は、毎月第1日曜日に10時から開催しています(1～3、8、9月はお休み)。

## 【4月23日】江の島片瀬漁協：江の島ハマグリ部会勉強会

4月23日、江の島片瀬漁協は「江の島ハマグリ部会勉強会」を開催しました。当日は8名の部会員が集まり、担当普及員が、今年度から特別採捕許可調査で実施する「ハマグリ貝桁調査」の漁具・漁法や操業に好適な条件について説明し、今後の調査計画等について協議しました。

## 【4月25日】小網代：体験漁業

日本さかな学校で養殖について学ぶ3年生14名が、小網代湾で取り組まれている牡蠣養殖の作業を体験しました。筏に吊るされた養殖カゴを引き揚げ、牡蠣殻やカゴに付いた汚れを落としてから、再び海へ戻す作業を行いました。

「身近で養殖が取り組まれていることがわかった」「大きく育てほしい」といった感想が聞かれました。



殻の汚れを落とす



再び筏に吊る

## 【4月30日】小坪：藻場保全

4月30日、小坪漁協の座間指導漁業士らの漁業者グループは、ヒジキ藻場の再生試験をはじめました。ヒジキが今年はほとんど生えていない大潮の干潮で干出するヒジキ藻場において、25m四方の試験区域を設け、そこに生息するウニをすべて除去し、当センターが育成したヒジキ種苗を設置しました。ウニの徹底除去により藻場が再生するか、磯焼けの進行はウニの外部からの移動によるものか等を調べます。

また、除去した一部のウニは小坪漁港内で養殖するそうです。



ウニが生息する藻場(ワカメは生えている)



ヒジキの種苗